

メディア・企業における「科学月子」の創造：中国都市部上海市を中心に

翁，文静
九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻：博士課程

<https://doi.org/10.15017/7386766>

出版情報：国際教育文化研究. 15, pp.175-187, 2015-10-28. Comparative and International Education, Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



メディア・企業における「科学月子」の創造

－中国都市部上海市を中心に－

翁 文静

はじめに

アジアの各地域では、産後の期間が特別の養生の時として強調され、女性たちが大切に扱われている習慣がある。しかし、最近の東アジアの都市部では産後のケアが市場化され、サービスとして購入されるようになった。また、医療の中のできごとになっている妊娠と出産と比べると、産後は、医療がいまだ影響力を及ぼしていない分野と思われるが、マタニティーブルーや産後うつ病のことばにも見られるように、精神的な側面から産後に注目が注がれるようになっている。その意味では、産後は精神医学の分野から医療化が進みつつあると言えるだろう（松岡・小浜 2013）。

中国における産後一ヶ月の養生期間の習俗である「月子 (yue zi)」¹も市場化、医療化、などの影響を受け、曾てないほど変容している。一昔前の中国では、産婦と新生児が家の中で、実の母もしくは姑の世話を受け、様々な禁忌を守りながら、一ヶ月を過ごしていたが、最近では、親族の代わりに、月子の専門家「月嫂 (yue sao)」が登場し、産婦と新生児に近代的なサービスを提供するようになりつつある。また、「月子センター」と呼ばれる専門施設まで作られ、医師・看護師、栄養士、月嫂たちに囲まれ、月子を積極的に享受する産婦も増えてきている。

このような月嫂や月子センターの出現、普及の一つの大きな理由は「伝統 chuantong 月子」の不合理な規範・禁忌に対する様々な批判である。中国の都市部では近年様々なメディアや産育企業が「科学 kexue 月子/育児」を提唱している。では、この「科学月子」とはどのようなものなのか、昔からの習俗である「伝統月子」とどのように異なるのか、「科学月子」は医療化、市場化とどのように関連しているのか。本稿では、これらの問題意識について、月嫂養成訓練の教科書、育児書などのメディア、および産育企業の分析を通して考察を行う。

一、メディアと「科学月子」

近年、中国都市部では、「伝統月子」に対して「科学月子」という言葉が様々なメディアなどを通して、広がりつつある。ここでは、月嫂養成教科書、育児書、育児雑誌を取り上げ、これらのメディアの指している「科学月子」に注目してみる。

1、教科書、育児書と「科学月子」

まず、月嫂養成教科書である『从怀孕到育婴（妊娠から育児まで）』と『职业技术部・职业资格培训教材—母婴护理（職業訓練・資格取得教材—母子ケア）』の著者、内容などについて分析してみる。2冊はほぼ同時期に出版されたが、月嫂の資格化に伴い、後者の『职业技术部・职业资格培训教材—母婴护理』が徐々に月嫂養成の指定教科書になってきている。

まず、『从怀孕到育婴』は、看護師を育成する組織である上海市护理学会（Shanghai nursing association）に所属している10名の産婦人科医師および小児科医師らが執筆、編集したものであり、当教科書のはじめに「現代社会において、体系的かつ科学的な妊娠、分娩、養育はますます注目されている」と書かれている。『从怀孕到育婴』は、医学基礎知識、ケア基礎知識、妊産婦ケア、乳幼児ケア、疾病および応急処置という五つの章に分けられている。

一方、『职业技术部・职业资格培训教材—母婴护理』は月嫂の資格の授与に関わる中国労働社会保障出版社の出版物である。当教科書のはじめの部分に「本教材は上海市職業訓練センターが専門家ら（上海市予防医学会の委員）の協力を得て、編集したものであり、（中略）科学性、先進性、独創性を持つものである」と記している。『职业技术部・职业资格培训教材—母婴护理』が①妊娠期ケア、②分娩期ケア、③産褥期ケア、④哺乳期ケア、⑤発達と早期教育、⑥小児生活ケア、⑦栄養と食事、⑧新生児疾患、⑨嬰兒疾患、⑩事故防止・予防という10章の内容から構成されている（翁2013）。

以上、2冊の月嫂養成訓練の教科書の著者、編集者、内容などについてみると、いずれの教科書の執筆・編集に関わる人も西欧医療の医師であり、教科書の内容も医学（主に西欧医療）、発達学、早期教育などのいわゆる「科学的」なものが多いことが分かった。しかし、2冊の教科書はわずかではあるが、伝統医療、土着的な知識・技術についても言及している。たとえば、『职业技术部・职业资格培训教材—母婴护理』の中では、伝統的な食材を使う月子料理が紹介され、布のオムツも勧められ、さらに母子の病気を対処するための「中医（漢方）」薬も推奨されている。

次に、育児書と「科学月子・育児」の関連性についてみる。ここでは、雑多の育児書からもっとも多く読まれていると思われる1冊の育児書—『十月妊娠、一日分娩』を取り上げる。上海市においては、産前検査、出産、そして産後往診のため、殆どの女性が妊娠後に区レベル、もしくは市レベルの病院に登録している。その際に、病院から様々な産育書、パンフレットなどを渡される。『十月妊娠、一日分娩』はその産育書の一つである。

当育児書の編集者馬梅英は上海市最も有名な産婦人科の病院の医師であり、表紙に「馬医師に正確な妊娠・出産・育児観念、科学的な育児方法を教えてもらおう」などのキャッチフレーズが書かれている。本育児書は、大きく妊娠準備、十ヶ月妊娠期間における注意事項、分娩、月子・新生児ケアという4つのパートから成っている。月子に関するパート4の月子・新生児ケアを詳しく見ると、月嫂養成訓練の教科書と同じ傾向、つまり、医学（主に西欧医療）、発達学、早期教育などの「科学」に基づくものが多いが、伝統医療、土着的な知識・技術についても言及していることがわかる。興味深いのは、当書に「伝統月子の落とし穴」という節が設けられていることである。著者の馬氏は「出産直後の橐の摂取」「早くスープを飲めば、母乳出が早い」、「果物を食べると歯が痛くなる」「ハムは傷口によい」といった伝統的な月子の通念ややり方に対して批判した上で、正しい解釈（西欧医療に基づくものが多い）を加えている。

2、「科学月子」を言及する育児雑誌

天童は育児雑誌が、産育の悩み、出産・育児の市場化、子どもへの関心など、現代の産育状況の様々な側面を映し出すと考え、1960年代から30年間の日本の育児雑誌の変遷を振り返り、以下のように述べた。育児雑誌は、1960年代末から70年代の登場期には、若い親たちの科学的でモダンな育児という理想に応えるべく、科学的知識の伝達の要素が色濃く折り込まれていた。その後年を追うごとに読者参加の誌面が増加し、とくに80年代以降の育児雑誌の記事構成は、読者である母親自身の声の掲載に重点が置かれ、医学や育児の専門家による助言は背後に退くかたちとなった（天童 2004）。では、中国都市部における育児雑誌は日本と同じ傾向が見られるだろうか。本節は、まず、妊娠・出産の内容を盛り込んだ育児雑誌『妈咪宝贝- 孕 0-3 岁版（母と子、妊娠～3歳まで版）』を取り上げ、この「科学」的育児雑誌がどのように月子を扱っているのかを分析する。その後、他の育児雑誌や老人向けの雑誌に書かれた「科学月子」に関連する記事をいくつか取り上げ、雑誌に現れる「科学月子」について考察を行う。

2003年に発売された『妈咪宝贝- 孕、0-3 岁版』は、2013年に同類雑誌の中、発行部数の最も多い育児雑誌になってきている。当雑誌是北京婦女兒童連合会が編集したものであり、多数な医療関係者、教育機構の専門家や心理学専門家が関わり、読者に専門性の強く、権威的、科学的な知識（妊娠、出産、医療、ケア、早期教育、消費などを含む）を伝える雑誌である（張、彭 2013）。また、孫によれば、2013年当雑誌は中国の12の都市部において、売上がナンバーワンになっており、ipad対応の電子版（**Electronic Journal**）も発売されている（孫 2014）。

『妈咪宝贝- 孕 0-3 岁版』では記事項目を「表紙親子ストーリー」「専門家による特別記事」「今月のトピック」「子どもの身体・健康・病気」「妊娠・出産」「養育と教育」「子どもの生活ケア」「親子の関わり」「読者参加」「漫画」「広告・記事広告²」「その他」など全12カテゴリーに分類している。

2007年8月の『妈咪宝贝- 孕 0-3 岁版』を見ると、「子どもの身体・健康・病気」、「妊娠・出産」および「子どもの生活ケア」についての記事が占める割合が高い。また、「広告・記事広告²」が全記事項目に占める割合も3割程度に達しており、商業育児雑誌の広告機能の高さが指摘できる。「広告」では妊産婦服、粉ミルク、哺乳瓶、オムツ、入浴グッズなど、産育に不可欠な商品の宣伝がなされ、とくに「記事広告」は、専門家の感想を交えるなど、その商品がいかに有用であるかが強調される広告となっている。一方、最も少ない記事項目として、「読者参加」をあげることができる。224ページの中の、わずか3ページである。

同号の『妈咪宝贝- 孕 0-3 岁版』の中の月子関連記事に注目してみると、月子記事が全部で5つあり、それぞれ、①「新生児スイミング」②「新生児嘔吐対処法」③「中医食療方」④「新生児入浴・沐浴」⑤「月子料理」である。①「新生児スイミング」と②「新生児嘔吐対処法」を執筆したのは小児科病院の主任医師および児童保健専門家であり、③「中医食療方」を執筆したのは中医の主任医師である。一方、④「新生児入浴・沐浴」と⑤「月子料理」は記事広告ではあるが、婦幼保健専門家が執筆したものである。ちなみに、④は産育商品を扱う国際企業JJ社、⑤は科学的な「段階式月子料理」を作り出したG社の記事広告である（企業と「科学月子」の創出を

次節にまとめる)。

次に、2011 年 10 月に『时尚育儿 (モダンな育児)』という育児雑誌に掲載されている「科学月子」の関連記事を見てみる。アメリカで医学博士を取得したのち、浙江大学の副教授に勤める DNAI が当育児雑誌に「坐月子科学与传统」を執筆している。当記事の中で、DNAI は「中国のみならず、韓国やベトナムなどのアジア国においても月子に似たような風習がある。(中略) 現代医学は月子について言及されていないが、女性の産後回復に対する理論と臨床的な経験を有する。たとえば、現代医学においては産褥期という概念があり、妊娠・分娩によっておこった母体の変化(全身および性器)が、妊娠前の状態に完全にもどるまでの期間、6~8 週を指す。この産褥期は中国の月子時期とほぼ重なるが、欧米の産後回復と中国の月子の最も異なる点は禁忌である」と指摘している。月子禁忌に関して、DNAI が「月子禁忌(歯磨き、お風呂禁忌など)が産後の慢性病の軽減もしくは回避に役に立つと信じられ続けているが、学術的な論文などによると、禁忌と慢性病の相関がみられず、場合によって、歯磨き禁忌などがかえて歯周病を起こす恐れがある」とした上で、「しかし、現状においては 60%から 80%の女性がシニア世代の指示通りに厳しい月子禁忌を守っている。よって、月子は科学であるか否かの問題ではなく、一種の文化であると言える。現代医学や統計データ、レポートから月子禁忌には科学的な根拠がないと判断したにも関わらず、いまだに月子禁忌が守られ、月子は科学以上のものである」と結論づけている。

「科学月子」を取りあげる雑誌は育児雑誌に限らない。老人向けの雑誌『新天地』にも関連記事が見られる。例えば、2012 年 6 月の『新天地』に「白发老人当“月嫂”为儿辛苦为孙忙(白髪老人が月嫂になり、子どもと孫のために尽くす)」という記事が掲載されている。この記事は大連市のある月嫂養成訓練センターでは祖母になる中高年女性が 3 割ほど占めていることを指摘している。同記事には未来の祖母たちの「科学月子」をめぐる心境、葛藤が吐露されている。たとえば、ある女性が「自分の育児経験が時代遅れになり、優生優育を重視する 80 後(80 年代以降生まれた人びと)の娘との間に対立が生じる恐れがあるため、月嫂養成訓練センターに通う」と言い、また別の中高年女性は「センターでの勉強を通して自分の育児観念が劇的に変わった。昔はベビースキンシップなんか聞いたこともなかったのに、今は、こういうものが赤ちゃんにとって大事であることを知った。やはり伝統的な育児方法はダメで、科学的方法で健康かつ賢い子どもを育てるべきだ」と語った。さらに、「月嫂養成訓練のお蔭で、心理学についても学び、産後鬱病も知った。科学的方法で育児するだけではなく、嫁と仲良くしないといけないと思う」という感想もある。

以上「科学」に基づいた『妈咪宝贝- 孕 0-3 岁版』の内容、他の雑誌に掲載されている「科学月子」の記事の分析を試みた。これらの雑誌、記事が指している「科学」には一つ大きな共通点がある。それは、「科学」を書く人々は医療関係者、教育学・心理学などの専門家であり、このような「科学」を教えてもらう人は育児経験のない若い妊産婦であり、自分の育児経験を否定する祖母たちである。言い換えれば、現代中国の育児雑誌はいまだに、「科学的で正しい」産育法が専門家たちによって上からの「権威」として垂直的に伝達され、その一方で、民間伝承による水平的な産育知識を「非科学的産育法」として退ける段階にあると言える。

二、産育企業と「科学月子」

上記のメディア以外にも、産育関連の企業も積極的に「科学月子」「科学育児」の語を使用し、自社の商品やサービスをアピールしている。たとえば、先述した産育商品を扱う国際企業 JJ 社は「科学」知識と実践に基づき、広く中国の産婦、新生児・乳幼児に自社の商品およびその使用方法を推進している。また、月子料理会社 G 社は「科学」的な段階式月子料理を作りだし、中国都市部の女性の間で人気を博している。さらに、月嫂トレーニングセンター（H トレーニングセンター）も積極的に「科学月子」、「科学育児」などのキャッチフレーズを掲げている。以下では、この 3 社と「科学月子・育児」との関連性についてみる。

1、JJ 社と「科学月子・育児」

JJ 社は創業 130 年近くの産育商品を扱う国際企業である。1886 年、創傷治療のためには医師や看護師が滅菌済みの縫合糸・手術用ドレッシングや包帯を使うべきであるという、当時としては革新的なアイデアをもって創業された。それ以来、人々の健康と幸せを変える新しい考えや製品を世界中で提供している。1992 年、JJ 社は中国市場へ進出して以来、病院や消費者に乳幼児の関連の商品を提供するとともに、新生児の健康、ケアに関する知識、理念、技術も推進している。2006 年の中華护理学会（Chinese Nursing Association）の委託したある調査によると、97%の産婦人科病院では入院中の新生児に JJ 社のベビーソープ、ベビーパウダーなどの商品を使用しており、60%の病院では JJ 社の編集した産育パンフレットを妊産婦に配布し、また、63.4%の新生児が JJ 社の編み出したベビースキンシップのサービスを受けている。

JJ 社の編集した産育パンフレットを詳しく見ると、表紙には「中華人民共和国衛生部婦幼保健、社区卫生司（地域レベルの衛生組織）協力項目」というキャッチフレーズ、裏表紙到北京兒童病院の名誉主任醫師江醫師のコメントと JJ 社のあいさつ文が掲載されている。裏表紙に書かれているコメントとあいさつの両方ともに「科学」という言葉が使用されている。江醫師のコメントに「（前略）当パンフレットを読めば、産婦が自身に起こる身体的、精神的な変化を把握することもでき、JJ 社の商品を使用し、科学的な方法で子育てもできる」と書かれているが、JJ 社のあいさつには「本社は小児科専門家委員会を設立し、医療関係者、新米両親に乳幼児のケア法を提案し、健康な赤ちゃんを育てることを手助けする。（中略）わが社は科学的な研究と実践を通して、乳幼児の発達に対する理解が深まりつつあり、そのため、医療関係者や新米両親にアドバイスと指導を行うことができる」と書かれている。

同パンフレットはわずか 17 ページのカラーの冊子であり、写真など多く使われるため、非常に読みやすいものである。その中身を見てみると、産後ケアの注意事項、産後体操、乳幼児の発達、乳幼児の肌の特徴、新生児・乳幼児の沐浴法、マッサージ法、オムツの選択と関連商品の紹介、病気時のケア、JJ 社の商品リストという 9 項目が含まれる。その中で、医者などの医療関係者の登場回数は 4 回となっている。

上記のように、JJ 社は中華人民共和国衛生部婦幼保健と連携し、病院に自社商品の提供やパンフレットの配布を実施するだけではない。様々な育児雑誌に広告、広告記事を掲載し、さらに、「科学」的な新生児・乳幼児の沐浴法、マッサージ法、乳幼児体操の DVD 教材を作成し、月嫂養成訓練センターに提供する。JJ 社はこのように企業として成長を続けながら、中国の都市部にお

ける「科学」産育法の創出に一役買っている。

2、月子料理会社 G 社の「科学」的な段階式月子料理

ベビー沐浴に関連する商品およびその使い方を中心に展開してきた JJ 社に対して、台湾企業である G 社は月子料理に注目し、太りやすく「間違った」各家庭の「伝統月子料理」とは違う「科学」的な段階式月子料理の創造と普及に成功した。

G 社の CEO 種氏はもともと台湾の母子番組のプロデューサーであったが、中国（大陸）との交流を重ねるうち、中国では月子食品が開発されていないことに気づき、2003 年に上海において初の G 社支店を開くことになった。種氏は「伝統月子」の観念を正し、産婦らに「科学月子」を提供するため、広州中医大学に入学し、中医の理論と実践を学んだ。その後種氏は中医の知識・技術と現代栄養学の知識を融合し、「科学」的な段階式月子料理を作り出した。しかし、種氏の事業は順風満帆ではなかった。開業後しばらくして、SARS が流行し、その上、万元近くの「月子料理」を疑った人々も非常に多かった。種氏は 2004 年から 2006 年の間に、上海市の各産婦人科病院に自社の商品を宣伝しに回った。2006 年に漸く上海市のトップレベルの病院と連携することができ、今やテレビ出演、雑誌の販売、「月子料理栄養士」資格の制定と授与まで発展してきた（广禾堂 編『孕妈咪』）。

G 社の月子料理は油物を中心とする伝統的な中国の月子料理と違って、産婦の体調をよく整え、母乳も出やすくなり、加えて、産後の肥満に対する心配もないという。段階式月子料理とは、一月の時間を 4 週に分け、それぞれの週に、産婦の身体的・精神的状況に合わせて、異なる食事を摂るべきだということである。具体的には、第 1 週目には、油のある物を避け、子宮の収縮をよくし、補血のため、レバーなどの食材を食べるべきとされる。第 2 週目は腎臓など内臓の収縮・復元にとっての大事な時期であり、その週に、動物の内臓や山芋、キクラゲなどを使用した料理が勧められている。第 3 週目には、「気」を補い、母乳の分泌をよくするため、油のある食材（豚足、川魚、鶏、ピーナッツ）や通草と呼ばれる漢方薬が多く使用されている。第 4 週目には、産婦の体質を改善するため、野菜、果物を摂ることも必要とされている。上記の 4 週にわたり、G 社の月子料理に最も多く使われたものは生姜と黒ゴマであり、この二つの食材は産婦の体を温めることができるかとされている。

3、H トレーニングセンターの指す「科学月子・育児」

近年、月子の重要な担い手である月嫂業界も行政、病院、企業と連携し、消費者らに「科学月子」を提供している。月嫂は 80 年代末から 90 年代初めにかけて中国の各都市で出現し、親戚もしくは近隣の女性が世話を必要とする産婦宅で手伝いをしたことが月嫂の始まりと言われているが、90 年代半ば以降になると、こうした女性を養成・派遣する会社が作られ、月嫂という新しい職業を生み出した。2000 年以降、国レベル及び市レベルにおける家事労働者の制度化・資格化に従い、月嫂が家政服務員（家政サービス員）の一員と位置付けられた³。上海市の場合は月嫂資格を検定する機関は上海市人力資源・社会保障局であるが、養成機関は同局の認定したトレーニングセンター及び連携する病院である。以下では、上海市内最大の H トレーニングセンターにおけ

る「科学月子」の中身を資格化との関連から見てみる。

H トレーニングセンターでは大きく三つの訓練（月嫂養成訓練、月子料理栄養士、催乳師）を行い、それぞれ行政の資格、センター独自の資格および企業の証明書を授与することになっている。催乳師は日本の助産師のように母乳マッサージを施術する専門家であり、月子料理栄養士は月子中に産婦のために特別な月子栄養料理を作る専門家である。以下、筆者の受講体験に基づいて紹介する。

まず、月嫂養成訓練として計 155 時間が必要であり、訓練用の教科書は上記の「科学」的な『职业技术部・职业资格培训教材—母婴护理』である。H トレーニングセンターでの講師ら（元看護師と元ベテラン月嫂）は午前中に教科書を使い、産育の知識を「学员」（生徒）に教える。午後の講義では、人形、哺乳瓶、鍋、手作り乳首など様々な道具を使い、技術を実演した後、グループごとで練習させる。このような訓練を受けた女性たちが 2 ヶ月一回の国家レベルの月嫂試験を受け、合格者には上海市人力資源・社会保障局の配布する証明書を授与される。

月子料理栄養士訓練の場合には、月子料理会社 G 社から H トレーニングセンターへ栄養士と料理人を一人ずつ派遣している。先述した通り、G 社は 2003 年に上海に進出した台湾の企業であり、CEO の種氏自身が中医及び現代の栄養学の知識を持ち、「段階式月子料理」を作り出した。G 社の派遣した栄養士が会社の基本情報や「科学」月子料理の必要性、段階的に取るべき食事の内容及び G 会社の商品などを紹介した後、料理人とともに、いくつか月子料理を実演した。料理人の実演の後、月子料理栄養士訓練に参加する女性らがまず筆記試験を受け、教われた料理の中から一つを実際作り、両方とも無事に終わらせることができれば、G 社の発行する合格証明書を受け取ることができる。

また、催乳師訓練の場合、某病院のベテラン助産師 F 氏を講師として H トレーニングセンターへ招いた。一日目に、F 講師がパソコンとプロジェクタを使用し、講義を進めた。その講義の内容は主に①「催乳師の定義」、②「母乳育児の理由」、③「母乳育児の方法」、④「おっぱいのトラブル」⑤「そのトラブルの諸解消法」となっている。それらの多くの内容が月嫂養成訓練の内容と重なり、つまり、現代医療、特に産婦人科を中心とする内容が多い。一方、二日目の講義内容は主に中医に基づくものであり、「マッサージの方法」「ツボの位置の確認」「トラブル別のマッサージ方法」に大別できる。マッサージの方法は主に押す、もむ、つまむ、指先でツボを突くなどを指すが、実際にマッサージを行う際に、複数の手法を同時に使う場合が多い。また、母乳に関する基本的なツボは主に 12 個である。F 講師がこれらのツボの位置を生徒とともに自分たちの体で確認したうえ、様々な手法でマッサージを実践した（翁 2013）。

以上 H トレーニングセンターにおける三つの訓練と資格についてみてきた。月嫂養成訓練、資格は主に医学（主に西洋近代医学）、発達学、早期教育などの「科学」的な知識に関わるものが多いことが分かった。一方、月子料理栄養士訓練の場合には中医と現代の栄養学の融合、催乳師訓練の場合には産婦人科に基づく現代医療と中医の融合が見られる。

三、「科学月子」の創造

以上、近年中国の都市部における「科学月子」の言及をメディア、および産育企業の分析を通

してみてきた。以下では、近年流行しつつある「科学月子」の中身およびその特徴について1、「科学月子」の医療化と商業化、2、資格化・制度化、3、伝統の維持と創出の3点に分けて、分析・考察を行う。

1、「科学月子」の医療化と商業化

医療化という概念は、通常、従来は医療的領域外にあった様々な現象が医療的現象として再定義される傾向を意味している。たとえば、子どもの落ち着きのなさや成績不振といった現象は、それを問題とする場合であっても、従来はしつけや教育的問題として捉えられていたわけだが、これらをその子どもの器質的な疾患—前者は多動症、後者は学習障害として捉えなおし、医療的实践によって改善しようという動きがある。これらに代表されるように、諸社会現象に対して医療的対処（医学/近代西洋医学的知識による解釈とそれに基づいた医療的实践による改善、それらの制度化）、を促す歴史的傾向が医療化と呼ばれている（佐藤 1999）。

佐藤の定義した医療化概念を用いれば、従来各地方、各家庭に任せられていた月子習俗が医療的現象として、「科学月子」という語の下に再定義されるとみなすことができる。先述した通り、教科書、育児書、育児雑誌などのメディアにおける「科学月子」についての言及、定義を行う人々は医療関係者、教育関係者、〇〇博士などの専門家であり、「科学月子」の中身も西洋近代医学、発達学、早期教育学などの「科学」的知識に基づくものが多い。また、国際企業 JJ 社、月子料理会社 G 社、H トレーニングセンターなどの産育企業も医療化と深く結びついている。JJ 社の創業エピソード（医師、看護師による創傷治療）や配布パンフレットに書かれた記事など（小児科専門委員の設立、科学的な研究と実践の蓄積）からも JJ 社と月嫂養成訓練との関連の深さを伺える。G 社の CEO も、わざわざ中医大学に入学し、中医の理論と実践を学んだとは言え、豊富な現代栄養学の知識も持ち、両方を融合させ、最終的に「科学月子料理」を作り出した。G 社にとっての「科学」には西洋近代医学に含まれる現代栄養学が欠かせない。H トレーニングセンターにおける三つの訓練と資格についても医療化現象が見られる。月嫂養成訓練に勤める講師も医療関係者であり、使用する教科書も西洋近代医学の知識・実践に基づくものが多い。催乳師訓練の場合にも西洋近代医学、主に産婦人科に基づく知識と技術を取り入れている。

こうした月子の医療化に伴い、「科学月子」に関連する産育商品やサービスなども急速に増えつつある（商業化）。本研究では産育企業は JJ 社、月子料理会社 G 社、H トレーニングセンターという三つの月子関連企業を取り上げたが、それぞれ異なる。JJ 社は主に新生児・乳幼児の商品を扱うグローバルな企業であるが、G 社は中国大陆と同じルーツ、文化を持つ台湾の食企業である。一方、モノではなく、人（月嫂）、サービスを提供するのが行政との連携企業 H トレーニングセンターである。しかし、1992 年に中国進出した JJ 社、2003 年に上海で初店舗を開設した G 社、そして、1995 年に作られた上海の企業である H トレーニングセンターという三社には共通点もある。それは三社とも行政・病院に関わり、徐々に消費者に認識され、今日の有名企業になったことである。JJ 社、G 社は「科学月子・育児」に関連する自社パンフレットを出し、テレビや番組に出演し、雑誌などにも広告が掲載されている。H トレーニングセンターも 2011 年中国で放送された大型テレビドラマ「月嫂」の撮影舞台になり、社長本人も校長役を演じた。この 3 社の成功は、彼らの作り出した「科学月子」が広く人々に受け入れられたことを意味している。

2、資格化・制度化

医療化、商業化と並んで、中国都市部における「科学月子」のもう一つの特徴は月子の資格化・制度化である。これを端的に表したのが月嫂の登場である。80年代から90年代始めにかけて自然発生的に現れた月子のお手伝いさんが90年代半ばになると、月嫂派遣会社及びトレーニングセンターに登録され、訓練されるようになった。さらに、2000年以降に、仕事を失った女性と出稼ぎ女性に職業を提供するという政府の動きに合わせて、トレーニングセンターが政府の関連部門（上海市の場合は上海市人力資源・社会保障局）の管轄になった。それに従い、これまで各派遣会社・トレーニングセンターに任されていた月嫂資格が市レベルの公的資格（試験を伴う）に代わってきている（翁 2014a）。このように20年間未満の間に、月嫂が制度化・資格化され、月嫂という正式な職業が創りだされている。上海市家政協会センターの委託派遣会社によると、2014年に上海市における月嫂の人数は3万人に上る（解放日報 2014年4月16日）。しかし、「科学月子」を担う月嫂の資格化・制度化は単なる雇用政策の一環だけではない。

周知のように、70年代の初めから、中国政府は全国的に計画出産政策を実施して「成功」をおさめ、中国と世界の人口を安定させることに貢献した。しかし、見方を変えれば、これは子どもを何人生むのか、という私的な行為と意思決定に国家が介入するということを意味している。また、計画出産政策の「成功」に伴い、国が子どもの数（量）の問題よりもどのような子どもを育てたいかという子どもの「資質」（質）への関心が高まってきている。例えば、1999年、中国における「早期の教育」政策が始まり、政府の教育方針策定に強い影響力を持っていた李嵐清國務副総理が「科学的な早期教育」に関するシンポジウムを組織した。李副総理は、21世紀の中国が国力を強め持続可能な発展をとげるためにも、早期からの子どもの素質能力を伸ばす教育がきわめて重要であると認識し、政策化へのギアを入れた。なお、この時の「早期教育」とは、0～3歳の乳幼児と、幼児園に就園していない3～6歳の幼児に対する教育のことで、李副総理は、既存の幼児園での教育を補完しながら、中国全土の0～6歳までの子どもたちが望ましい「科学的な」教育を受ける手立てを講じるような教育関係者に強く訴えた⁴（一見 2008）。2000年以降の、月嫂の制度化・資格化も李副総理の提唱した「科学的な早期教育」に深く結びつき、その延長線上あると考えられる。言い換えれば、0歳からの子どもだけではなく、妊娠・出産、産後という産育時期への国家が積極的に関与していると言える。

3、伝統の維持と再創造

「科学月子」の三つ目の特徴は伝統の維持と再創造である。まず、月子の医療化が進む一方で、「伝統月子」全般を否定するというわけではない。教科書、育児書などのメディアを見る限り、伝統月子の禁忌（歯磨き、お風呂など）に対する批判が多いが、伝統的な薬膳料理、中医の処方、布オムツなどの「伝統」をむしろ推奨したり、「科学」であると評価したりする傾向も見られる（伝統維持）。また、G社の月子料理と催乳師資格を伝統の再創造という視点から見るができる。伝統的な月子料理は決まったメニューではなく、最低限の禁忌（果物・野菜など冷たいものや辛いものを避けること）さえ守れば、後は各地方、各家庭に任せる所が多かった。おっぱいマッ

サージは特に漢方の理論に依拠するのではなく、個々人の経験の基づく手法であった。しかし、G社の月子料理と催乳師資格は共に、近年産育の商業化、市場化に伴い、特化され、新しい分野として樹立されつつある。特に催乳師は企業レベルの資格のみならず、新たに設けられている国家資格を取ることもできる。言い換えれば、G社の月子料理と催乳師という「伝統」は、欧米・現代的な知識・技術と共存し、それを取り入れつつ、新しい形に作り直されたとしているのではないだろうか。そして、月嫂らはG社の月子料理を模倣したり、催乳師資格を取ったりすることで、伝統の再創造に積極的に関わり、この作られる伝統をさらに普及、拡大することに一役買うことになる。つまり、彼女らは伝統再創造の実践と推進の役割を果たしているとも言えよう（翁 2014 b）。

終わり

本稿では、近年中国都市部広がりつつある「科学月子」を取り上げ、「伝統月子」との違い、「科学月子」の特徴などについて考察を行った。「伝統月子」とは出産後ほぼ一ヶ月の間、産婦が起居飲食においてに守らなければならない一連の規範と禁忌のことであり、胎盤の処理、家族成員を含む他者との関係、各段階における産婦と新生児にまつわる各種の儀式などをも含む（姚 2009）。一方、「科学月子」は、主に「伝統月子」の不合理な禁忌を批判し、近代西洋医学的知識と実践に基づき、月子を「科学化」しようとする動きである。「科学月子」に関わる機関、人々とは政府機関、メディア、病院、教育専門家、産育企業、月嫂など多岐にわたることが分かった。彼らの関わった「科学月子」の特徴は1、「科学月子」の医療化と商業化2、資格化・制度化、3、伝統の維持と創出という3点にある。このように、今までの「伝統月子」とは違った「科学月子」が政府機関、メディア、病院などのエージェントを通して、新たに創造されつつあると言える。

注：

- 1、月子とは、出産後ほぼ一ヶ月の間、産婦が起居飲食においてに守らなければならない一連の規範と禁忌のことで、中国で広く見られる一種の習慣である。月子の規範と禁忌は具体的に飲食と日常の起居行為に大別できる。これらの規範と禁忌を守らなければならない理由は、「この時期は病気になりやすい時期で、しかも病気にかかると、一生治らない」という言い伝えがあるからである（姚 2009）。
- 2、広告とは、純粋に商品の宣伝のためにその記事をスペースが分かれているページ、一方、記事広告とはスポンサーとの提携ページや商品情報付きのページなど、広告と記事との中間領域に属するページを指す（天童 2004）。
- 3、国家労働局及び社会保障局の配布した「家政サービス員国家職業標準（2000年）」によると、家政サービス員とは「顧客の要望に従い、各家庭において家事全般を担当し、児童、老人、病人の世話をし、家庭の様々な仕事に携わる人員」と規定されている。
- 4、中国での「早期教育（原文）」とは、社会全体が取り組む「資質教育」のなかの、「もっとも初期段階の教育」という位置づけである。日本で「早期教育」という時の「通常教育より早め早めに先取りして行う教育」という意味合いではなく、あくまでも「早期からの教育を」というこ

とである（一見 2008）。

参考文献：

〈日本語〉

泉千勢・ 汐見稔幸・ 一見真理子 2008『世界の幼児教育・保育改革と学力(未来への学力と日本の教育 (9))』明石書店

翁文静 2011「中国上海市における育児の外部化について—家政婦雇用の背景を中心に—」『国際教育文化研究』九州大学大学院人間環境学研究院国際教育文化研究会 11 号

翁文静 2013「中国上海市における家事労働者の養成プロセスについて—月嫂（SAO）を中心に—」『発達社会学研究』 第 5 号

翁文静 2014「中国都市部における家政婦月嫂（SAO）の成立と発展—上海市を中心に—」国際教育文化研究 Vol. 14

翁文静 2014 b「中国都市部における月子をめぐる産育文化の再構築に関する一観察—月嫂の果たす役割を中心に—」『子ども社会研究』21 号 掲載予定

天童睦子 2004『育児戦略の社会学—育児雑誌の変容と再生産』世界思想社

佐藤哲彦 1999「医療化と医療化論」『医療社会学を学ぶ人のために』世界思想社

松岡悦子・小浜正子 2013『世界の出産—儀礼から先端医療まで』勤勉出版

姚毅 2009「産後の養成坐月子—中国」『アジアの出産—リプロダクションから見る文化と社会』勉誠出版

〈中国語〉

DNAI 2001「坐月子科学与传统」『时尚育儿』2011 年 10 期

趙嘉然 編 2006『職業技術・職業資格培訓教材—母嬰護理』中国労働社会保障出版社

黎米 2012「白发老人当“月嫂” 为儿辛苦为孙忙」『新天地』2012 年 6 期

马梅英編 2010『十月妊娠、一日分娩』江蘇科学技術出版社

孙亚琴2104「育儿类平板杂志发展现状研究—以妈咪宝贝传媒为例」『新闻世界』2014年04期

上海市护理学会 編 2007 年『从怀孕到育婴』上海科学技術出版社

张小娟, 彭袅婷2010「母婴期刊的SWOT 分析—以《妈咪宝贝》为例」『湖北广播电视大学学报』湖北广播电视大学出版

参考資料

妈咪宝贝杂志社 編『妈咪宝贝—孕、0-3 岁版』（2007 年 8 月号）

广禾堂 編『孕妈咪』

强生婴儿 編『新妈妈爱的教育』

参考 HP

上海市预防医学会（2015 年 8 月 7 日取得）

http://www.spma.sh.cn/yfyx/application/zw_nr.asp?zw_id=11

强生 Johnsonbany (2015 年 8 月 7 日取得)

http://www.johnsonsbaby.com.cn/?page_id=42

Creation of “Scientific Month” by Media and Company: In Shanghai, the Urban China

WenJing Weng

In this paper, I analyzed “scientific Confinement” which is becoming popular in urban areas of China in recent years. I examined how it is different from the “traditional Confinement” and what the characteristics of the “scientific Confinement” are.

Traditionally, parturient women had to follow a series of norms and avoid taboos regarding their dietary and other daily activities, which lasts for about one month after their birth; this is what is called “traditional Confinement.” It also includes disposal of the placenta, relationship with the family members and others, and numerous rituals for the parturient women and newborn babies (Yao 2009). On the other hand, the traditional Confinement” has been criticized for it no longer has any functions, either socially, culturally, or symbolically. Those who support for “scientific Confinement” critically point out the irrational taboos of “traditional Confinement.” They try to let the mothers to spend the one-month period “scientifically” based on the knowledge and practice of modern western medical science.

Moreover, this paper revealed that various organizations and people are involved with the “scientific Confinement,” which include governmental organizations, media, hospitals, education experts, nursing industries, nursing women. The characteristics of the “scientific Confinement” which they believe are: 1) medicalization and commercialization of the “scientific Confinement,” 2) qualification and systematization, and 3) maintenance and creation of traditions.

Thus, the “scientific Confinement” which is different from the “traditional Confinement,” is on the process of creation through the agencies such as governmental organizations, media, and hospitals.